

## 「裕次郎の世界」

(第三十九回)

みんなに愛された石原裕次郎さん。このたび17回忌法要に合わせ、ファンを無料招待する特別映画の上映会が行われた。

当選者3万人に対して47万通の応募はがきが全国から集まっている。ちょうどそのとき、実は、私は裕次郎さんと一緒にいたのである。

札幌市から40分で小樽駅に着く。海を臨む街には潮の香りが一杯だ。傍らにはヨットハーバー。波に浮かぶ白いヨットがよく似合う。海岸に沿って少し歩くと、ようやく憧れの石原裕次郎記念館に到着。

さっそく音声ガイドを借りて、裕次郎の世界にタイムスリップだ。イヤホンから流れてくるのが、石原まき子さんのナレーション。20数個のセクシオンに分



けられたテーマは、俳優、スター、歌手、タフガイ、芸術家、海、クロゼット、愛と青春、仲間、足跡など。単にポスターやビデオ、縁りの品々を観て楽しめるだけではない。裕次郎とい

う人間の強さや優しさ、思い遣りを肌で感じる。裕次郎がスーパースターになりえた理由は何だろうと考えてみた。遅い生命力とともに、「恋の町札幌」ブランドグラス」のような男の色気。さらに、現在東京都知事である兄の石原慎太郎氏が芥川賞を受賞した「太陽の季節」など。映画やテレビで勇気づけられ、歌で癒された人々は数えきれない。

命日7月17日には、「夜霧よ今夜もあがりごと」のDVDも発売。ずっと私たちの心の中で生き続ける裕次郎さんに、「本当にありがとう」と思いを伝えたい。

(医学博士・内科医師)